

過日 8 月 22 日に防衛省が、10 月に行われる饗庭野演習場での日米合同演習に普天間基地などに配備されている新型輸送機オスプレイを参加させることを、米軍側と最終調整をしていると公表しました。

その内容は、ホバリング状態のオスプレイから日米隊員が乗降する訓練などです。

オスプレイは、世界各地で事故を多発させている欠陥輸送機であり、饗庭野での合同演習で事故を起こさない保障は全くありません。

安倍首相や小野寺防衛大臣らは、沖縄基地軽減のため本土分散を目的に饗庭野でのオスプレイ訓練を行おうとしていますが、オスプレイの危険分散になっても沖縄県民の負担軽減にはつながりません。

沖縄の願いは、今年 1 月沖縄県全自治体と全地方議会が首相に提出した建白書で明らかなように「オスプレイの配備を直ちに撤回すること。」「米軍普天間基地を閉鎖、撤去し県内移設を断念すること。」です。

今回の饗庭野でのオスプレイ参加訓練は、沖縄県民の総意とかけ離れています。

安倍政権と防衛当局が、饗庭野での日米合同演習へのオスプレイ参加を口実に沖縄県知事に対して、辺野古への新基地建設への協力を求めるなどは言語道断です。

よって、日米合同演習及び 10 月に予定されるオスプレイ参加の合同演習の中止を強く求めるものです。

以上、地方自治法第 99 条の規定に基づき意見書を提出します。

平成 年 月 日

近江八幡市議会議長 善住 昌弘

内閣総理大臣 }  
防衛大臣 } 宛